

●パブリックコメント集計結果一覧表

対象事案の名称:小美玉市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)(改定案)

1. 意見提出者数 1人

| 提出方法 | 人数 |
|--------|----|
| 郵送 | |
| ファクシミリ | |
| 電子メール | |
| 電子申請 | 1 |
| 直接持参 | |
| 合計 | 1 |

2. 提出された意見の内容及び市の考え方

| NO | 意見の対象箇所 | 意見の内容 | 意見数 | 市の考え方(回答) |
|----|---------------------|--|-----|---|
| 1 | 「方針1再生可能エネルギーの導入推進」 | <p>【意見】 霞ヶ浦の水面を利用して浮体式大規模太陽光発電施設をPFIで導入し、小美玉市のCO2をニュートラルまで持っていく。</p> <p>【意見の理由補足】 以前にも何か別のパブコメで同じことを書いて、広報誌上でご回答も頂いた意見で恐縮ではありますが、再度記載させていただきます。 省エネルギーには限界があるので創エネが必要ですが、カーボンニュートラルにはかなりの創エネが必要です。そのため再エネ電力の調達を検討していると思いますが、民間との奪い合いになって調達コストを上昇させてしまい、民間企業の活力や競争力を削ぐことに直結するので、公共が手を出すべきでは無いと考えます。 公共は公共で自力でカーボンニュートラルを目指すべきです。 小美玉市で創エネできるのは太陽光発電、バイオマス発電、廃棄物発電くらいと思われ、伸ばせるのは太陽光と考えます。その点は公表資料の方針に異論はありません。 しかし太陽光には広大なスペースが必要です。市の保有地や建物だけではカーボンニュートラルには遠く及ばないと推定します。 漁業者との調整は面倒かもしれませんが、広大なスペースが確保できる霞ヶ浦の水面に太陽光発電施設を導入すれば、CO2削減という将来世代への実利とともに、小美玉市のイメージアップにも強力な話題提供効果があると考えます。</p> | 1 | <p>本計画は、カーボンニュートラルを目指す上で2030年の国が示す目標の達成を念頭に置き策定しています。本市としては、現在の技術を十分に活用することが可能な市有施設において、他自治体でも導入実績が豊富で、実践しやすい施策を推進していきたいと考えております。カーボンニュートラルはご指摘の通り、かなりの創エネが必要となり、直ちに実現できるものではなく、長期的な取り組みの上、達成されるものであると認識しています。長期的な取り組みとなるため、その間に様々な技術革新が生じることも想定されます。ご意見のあった太陽光発電については、水位の変化によるパネル破損、漁業・観光業などとの調整、景観的配慮など導入による様々な影響が考えられます。今後、新技術等の実装が進んでいくことも予想されることから、本市に適した手法による再エネ導入を引き続き推進してまいります。</p> |
| | | 合計 | 1 | |